

科目名	傾聴実習指導					単位	1.0
担当教員	目黒 達哉						
授業形態	実技・実習	開講期間	随時	配当年次	3,4	授業番号	9129

●授業のテーマ

傾聴について実践的に学ぶ

●到達目標

傾聴士とは何かを理解する。また、社会での傾聴士の必要性、有効性を知る。さらには、利用者等の話を傾聴できるようになる。最終的には傾聴士の資格を取得する。

●学習内容(授業概要)

<傾聴実践実習指導(事前学習)>

事前学習では、受講学生の資格取得の動機確認、ヴィジョン(実習を終えたときに自分自身がどうなっていたいのか)を確認する。実習を想定してのロールプレイ、構成的エンカウンターグループの手法を導入し、疑似体験を実施する。

また、実習担当者から実習先の配当がなされ、実習日時、実習先の確認、実習日誌の書き方、実習中の注意事項など説明する。特に、傾聴実習中に知り得た利用者の情報など守秘義務に関することについては入念に指導する。

<帰校日指導> 実習の前半の振り返りと後半に向けての指導を行う。

<傾聴実践実習指導(事後学習)>

事後学習は、受講学生が作成した実習報告書をもとに、実習を振り返り、体験を自分自身の内面に定着できるように指導をする。具体的には受講学生一人ひとりから体験発表をしてもらい、それに対して、担当教員が指導・助言をする。特に受講学生が戸惑い、悩み、葛藤した体験を重要視する。受講学生が葛藤を昇華できるようにする。

なお、最終回として、資格取得のための面接試験を実施する。

●学習内容(授業計画)

<事前学習>

1. オリエンテーション
2. 動機は何か(なぜ傾聴士を取得するのか)?
3. 傾聴士とは
4. 傾聴するということ
5. 傾聴・受容・共感について
6. 実習日誌、実習報告書の書き方
8. 実習時の注意事項
9. 帰校日指導

<事後学習>

10. 実習報告(a, b, cの3名)
11. 実習報告(d, e, fの3名)
12. 実習報告(g, h, iの3名)
13. 実習報告(j, k, lの3名)
14. 実習報告(m, n, oの3名)

15. 資格取得に関する面接試験

●準備学習・事後学習の内容

準備学習: 傾聴ボランティアや傾聴に関する書籍、文献、新聞記事等を読む。

帰校日指導: 実習前半の振り返りと後半に向けて。

事後学習: 実習指導で学んだことの要点をまとめる。

●成績評価方法・基準

出席点 50 点、報告書 50 点で評価する。

●テキスト（必携）

テキストは使用しない。

資料を用意する。

●参考文献／その他

参加文献は適宜紹介する

●履修上の注意

学生の皆さんの積極的な参加を望む。